



受験を感じる 成長を信じる

大学入学共通テスト受付最終日時点での出願者数が50万1981人との発表がありました。また、3年生は今月だけで4回の模擬試験やプレテストを受験しました。受験が近いという実感が日々増えています。

ところで、9歳～11歳は、神経系の発達に伴い、スポーツなどにおいて技術力が大きく伸びるため、ゴールデンエイジと呼ばれます。3年生にも同様の時期があります。10月中旬～12月中旬の約2ヶ月間です。この時期になると、こつこつと積み上げられた断片的な知識が体系的な知識に変化し、問題を解く能力が高まると考えられています。また、授業が受験に向けた演習へと切り替わっていくこの時期は、分からないことが具体化されてきます。解決すべきことが見えるようになり、さらに学ぶ意欲も強くなっていきます。

受験は団体戦です。クラスに目の色を変えて学習する人が増えれば、クラスの雰囲気が変わり、クラス全体の更なる学力向上が見込めます。57期が一丸となって大いに学力を伸ばしましょう。

文理選択 — 1年生 —

「1年生の秋時点で成績のよい生徒の92%が文理を決定している」というデータがあります。59期生のみなさんはどこまで考えているのでしょうか。

例えば、「数学が苦手だから文系」といった選び方は避けましょう。まだ2年以上あるからです。どの分野から克服し、苦手分野をどこで補うのか、対応する時間は十分あります。また、文系に進むからといって、数学や理科の学習を疎かにして良いわけでもありません。文系の学部でも入試に数学を課す大学があることや、「文理融合型」の学部学科が増えている現状もあるからです。

『キャリアプランニングノート』の25頁をしっかりと読み込みましょう。81頁のワークも活用して、他者からの情報や自分の考えを見えるようにすると、考えもまとまりやすくなります。ありきたりですが、情報を集め、よく考えることが大切です。

★最新版の「赤本」貸し出しについて

- * 貸出期間は1泊までです。
- * 借りた翌朝1限までに返却してください。
- * 破損等に十分気をつけましょう。

志望大学選択 — 2年生 —

今年度中に志望大学を、できれば学部学科まで絞り込みましょう。理由は、来年度の学習に余裕を持つことができるからです。もう少し補足すると、学科まで決まるということは、受験する科目を選ぶということに直結しているからです。2年生の冬のうちに、3月の自宅学習期間に、春休みに、自分の課題に向き合うことができます。「数学が苦手だから、数学の配点が高い大学を避ける」と、志望大学の選択肢を減らすことになります。自分の課題に早く向き合うことで、選択肢を増やしましょう。

また、例えば「英語が好きだから外国語学部/文学部/国際関係学部」という選択も注意が必要です。できれば学科の独自性にも目を向けましょう。英語にどのように関わることができるのか、どのような経験ができるのか、どのようなスキルを身に付けることができるのか。調べ、考える時間は十分あります。

入試情報 — 3年生 —

受験に関する最新情報を知ることは重要です。ここでは、共通テストの英語について確認しましょう。大学によってReadingとListeningの配点の比率が異なります。国公立大学では、R:L=100:100が全体の30%程度、160:40が35%程度と異なっています。同じ大学でも、学部によって異なる場合もあります。配点の変更もあります。広島大学では、情報科学(前期A型)受験で、数学600→800点へ、外国語600→400点へと変わります。数学の大幅な強化が必要になっているのです。

学部改組や定員の変更にも関心を持ちましょう。

鹿児島大学 農学部	総合型選抜枠拡大に伴い、前期日程の募集人数が163人→154人に減。
熊本大学 教育学部	学部改組に伴い、230人→220人に減。特に前期日程は177人→161人に減。
九州大学 歯学部	前期定員を45人→37人に減。ただし、学校推薦型選抜の枠を8人設置。

ここでは「減」というマイナスイメージの情報を紹介しましたが、「総合型」「学校推薦型」の枠の増加や、後期廃止に伴う前期募集人数増加などの動きも見られます。自分の希望する大学や学部学科を様々な角度から捉えましょう。受験のイメージを具体化できれば、心にゆとりができたり、引き締まったりすることにつながります。

共通テストまであと78日。頑張れ3年生!